

「うみがめ」の試験研究目的の採捕承認に係る報告（概要）について

【承認機関名：鴨川シーワールド】

承認年度／承認番号	目的	計画内容	主な結果	備考
令和4年度 千かめ第21号	○ウミガメの繁殖生態（上陸、産卵）の 解明 ○卵、ふ化幼体を用いたアカウミガメの 発生生理に関する基礎的知見の 収集 ほか	○地先海岸（東条海岸）の上陸産卵調査と産卵巣の保護（監視） ○自然その他の要因によりふ化が不適と判断した場合、施設内に保護収容 し、脱出予測、ふ化率、成長、成熟を調査 ○飼育個体にタグ（マイクロチップ）を装用して放流後の資源量調査に寄与	○アカウミガメ上陸産卵数 東条海岸 産卵 2 件、市内海岸 産卵 1 件 ・うち 2 件の卵 243 個を保護（ふ化数 222 個体、ふ化率 91.3％） ・うち 50 個体は成長等の調査のためタグを装着して飼育後、17 個体放流	
令和5年度 千かめ第22号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○アカウミガメ上陸産卵数 東条海岸 産卵1件、市内海岸 産卵 3 件 ・4 件の卵 465 個体を保護（ふ化数 46 個体、ふ化率 9.9％） ・うち 27 個体は成長等の調査中 ○アカウミガメの上陸産卵回数は 2012 年をピークに減少傾向	
令和6年度 千かめ第22号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○アカウミガメ上陸産卵確認件数 東条海岸 産卵 2 件、市内海岸 産卵 1 件 ・うち 2 件の卵 234 個を保護（ふ化数 130 個体、ふ化率 55.6％） ・うち 50 個体は成長等の調査中 ・海岸で経過観察した1件は産卵数約 70 卵、ふ化数約 34 個体 ふ化率 48.6％ ○飼育個体にタグ（マイクロチップ）を装用しての放流は、令和 6 年度は放流 時期の遅延により保留。海水温・気温の上昇が期待される令和 7 年 6 月 頃に保護した成体・亜成体とともに実施予定 ○アカウミガメの上陸産卵回数は 2012 年をピークに減少傾向	

【承認機関名：日本獣医生命科学大学】

承認年度／承認番号	目的	計画内容	主な結果	備考
令和4年度 千かめ第24号	○ウミガメ類の罹患する疾病と健康 状態の把握（病理解剖、病理組織学 的データは極めて乏しい状況）	○混獲死及び死亡漂着した個体の病理解剖を実施。諸臓器の所見と組織 標本の顕微鏡観察により疾病の有無、健康状態を評価	○2 個体の病理解剖を実施 ・小腸の漿膜では微小結節がみられ、寄生虫感染が示唆された。 ・全身性うっ血や肺水腫が見られた。	
令和5年度 千かめ第25号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○13 個体の病理解剖を実施 ・小腸の漿膜では微小結節がみられ、寄生虫感染が示唆された。 ・他国での死亡例の全身性うっ血や肺水腫等一致点が多かった。	
令和6年度 千かめ第24号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○7 個体の病理解剖を実施 ・小腸の漿膜では微小結節がみられ、死滅線虫が観察された。 ・他国での死亡例の全身性うっ血や肺水腫等一致点が多かった。	

※令和 6 年度の結果については、令和 7 年 1 月末時点の実績

【承認機関名：千葉県立中央博物館】

承認年度／承認番号	目的	計画内容	主な結果	備考
令和4年度 千かめ第25号	○絶滅危機のウミガメの死体を標本保存し、将来的な研究に供する。	○勝浦市沿岸に死亡漂着したウミガメ類、あるいは産卵巣に取り残されて死亡したアカウミガメ稚亀の背甲長等の各部計測とDNA解析用の組織採取を行うとともに、保存用の標本を作成	○アオウミガメ（1 個体）の標本作成・保存 ○不明種腹甲骨（1 個体）の乾燥標本作成・保存	
令和5年度 千かめ第25号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○実績なし （漂着及び調査対象となる産卵巣がなかったため）	
令和6年度 千かめ第25号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○実績なし （漂着及び調査対象となる産卵巣がなかったため）	

【承認機関名：国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産資源研究所】

承認年度／承認番号	目的	計画内容	主な結果	備考
令和4年度 千かめ第23号	○日本沿岸に来遊するウミガメ類の基礎的生態情報の把握	○関東沿岸に来遊（漂着や混獲個体）するウミガメ類の種組成や甲長分布、食性等の調査 ○組織から遺伝子型を特定して産地を推定調査 ○生存個体への電子タグの装着による移動経路の調査	○119 個体の漂着・混獲個体を調査 ・アカウミガメが 55 個体：平均甲長 71.7cm・70-75cm にピーク ・アオウミガメが 63 個体：平均甲長 52.8cm・40-45cm にピーク ・タイマイが 1 個体 ・甲長ピークが成熟前であったことから、房総半島周辺は未成熟のウミガメ類にとって重要な餌場と推測 ○胃内容物調査 ・アカウミガメ 36.5%、アオアウミガメ 47.6%からプラスチックなどの人工物の誤食を確認 ○性比はアカウミガメ雌 42%・雄 31%、アオウミガメ雌 60%・雄 29%	
令和5年度 千かめ第23号	○令和 4 年度に同じ	○令和 4 年度に同じ	○52 個体の漂着・混獲個体を調査 ・アカウミガメ 22 個体・アオウミガメ 30 個体 ○電子タグ装着による移動経路調査中（6 月アカウミガメ甲長 64.8cm） ・館山沖から相模湾・東京湾に滞在後、夏から秋は三陸沖、冬は南鳥島近くに移動・滞在していることを確認	
令和6年度 千かめ第26号	○関東沿岸に来遊するウミガメ類の基礎的生態情報の把握	○関東沿岸で漂着または混獲されるウミガメ類の種組成や甲長、性別、食性などを調査 ○採取した組織から遺伝子型を特定して産地を推定	○37 個体を調査 ・アカウミガメ 12 個体・アオウミガメ 25 個体の甲長や性別に関する情報を収集済み。 ○アカウミガメ 9 個体について遺伝子分析（mtDNA）を実施中。	

※令和 6 年度の結果については、令和 7 年 1 月末時点の実績